アルとマシューの魔法修行

Arthur

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
アルとマシューの魔法修行

【Ｎコード】
Ｎ１２４１ＢＡ

【作者名】
Ａｒｔｈｕｒ

【あらすじ】
双子のマシューとアルフレッド。二人は満月の夜に魔法修行に出かける。一流の魔法使いになるために。電車に乗って着いた港街、そこには兄弟でパン屋を営む魔法使い、アーサーとフランシスがいた。
とある満月の夜、二人の修行はまだ始まったばかり！

満月の夜は旅立ちの日。（前書き）

満月の夜に出発したいじゃないか！！今日は記念すべき日なんだぞ☆

発想力のない作者はヘタリアと何かのパロしかできないと思うんです。で、文章力もありません。アマゾン川並みの広さの心を持ってこの小説に挑んでください。

満月の夜は旅立ちの日。

？東北東の風、風力１、晴れやかな満月の夜になるでしょう？
風の音、草がこすれあう音、蜂の飛ぶ音。たくさんの音に囲まれながら、俺はラジオの天気予報を聞いていた。なぜかって？今日は記念すべき独り立ち、あっ違う。二人立ちの日になるかもしれないからさ。旅立ちに良い天気は欠かせないだろう？俺は、自分を鍛えるために修行に出るんだ！

「アルー？ホットケーキ焼けたよー！早く戻って来てくれよー！」
この俺を呼ぶ声の主はマシューって奴。俺の双子の兄貴なんだ。独り立ちじゃなくて二人立ちなのはマシューと一緒に修行に出かけるからさ！あぁ、そういえば肝心な自己紹介を忘れていたね。俺は魔法使いの血を受け継ぐ、「アルフレッド」さ！！

さっきの話に戻るよ。えーっと・・マシューのホットケーキはすっごく美味しいんだ！！おいしいホットケーキを食べる前に天気予報の事を皆に伝えなくちゃ！！
「マシュー！！今日は満月だ！！晴れるってさ！！早く師匠たちに伝えに行こう！！」
俺は、俺の事を迎えに来てくれたマシューの前を走って通り過ぎ、師匠たちのいる家へと向かう。

「王躍（ワンヤオ）！！　菊！！　今日俺たち出発するよ！！」
開いている窓から家の中にいる二人に話しかける。
「はぁ？！ホントに行くつもりだたあるか？！お前たちにはまだ早いある！！それにあれはかなり昔の」

「いいじゃないか！！君たちは俺たちと同じ年の時に修行に行ったんだろ？あ、菊ー！あのラジオもらうぞー！！」
「アルフレッド！！」
―ぼわぁん！！
王躍は薬を作っていたのだが、大声を出したせいで心が乱れたのだろう。薬はものすごい音を立てて爆発してしまった。
「ＨＡＨＡＨＡ☆」
「スミマセン・・。王さん・・。」
階段を急いで上がり自分の部屋にあがっている俺の後ろに続くマシューは、階段を上がりながら王躍に謝っていた。
（とにかく！！俺は絶対、修行に行くんだぞ！！）

満月の夜は旅立ちの日。（後書き）

はい！ここまでありがとうございます。さっさとパロやめて自分でストーリー考えろや！という方もいらっしゃることでしょう。本当に申し訳ありません。
ですが！！このあとがきをあなたが読んでいるという事は、あなたがこの小説を最後まで読んでくれたという事。本当にありがとうございます。
１話を乗りきることができたあなたならきっと大丈夫！最後までよろしくお願いします！！

菊の表情（前書き）

菊さんが今まで僕たちに見せた事のないような怖い顔をした。この日、この瞬間から、僕たちの宿命は動き出す――――。

菊の表情

「ねぇ、アルー。やっぱり、王(ワン)さんたちの言うとおりにした方がいいよ。修行は・・・」
僕は、大きなバッグに自分の荷物を押し込んで出発の準備をしているアルにかける。
「何言ってるんだい？君だってあの時の事、気になるだろう？それに、俺たちは真実を探しださなきゃいけないじゃないか。」
アルは荷物を押し込んでいた手を止めて、僕に少し怒った顔を見せる。
「そう・・・だね・・。」
（アル・・まだあの時の事を・・。もう、いいじゃないか・・・。あんな事件、早く忘れてしまおうよ・・！！もし、あの時僕が見たものが正しかったら・・。）

「あの・・お二人とも。」
後ろから菊さんの声がして、僕の頭の動きは一瞬止まってしまった。だって、考えてた人がいきなり目の前に現れたら、びっくりするでしょ？良いことじゃなかったらなおさらね。
「・・どうか、なさいましたか・・・？」
そんな僕を見て菊さんは心配そうに顔を覗き込んでくる。
「あぁ！！ハイ！大丈夫です・・！！」
そう答えた僕を見て菊さんはにっこりと微笑む。
「なあ、菊！俺たち、今夜修行に行ってもいいよなぁ？」
突然、アルは菊さんの着物の袖をぐいぐい引っ張って菊さんに話しかけ始めた。菊さんは「着くずれしてしまいますよ。」と困った顔をして、アルの腕を離させた。

「・・はぁ。修行に出る、ですか。でも、修行はとても大変ですよ？」
一息ついてから菊さんは少し困った顔をしながらそう言った。
「大変じゃなきゃ修行じゃないじゃないか！何言ってるんだい、菊！」
いつものように笑顔で答えるアル。そんなアルを見て、菊さんは小さく鼻でため息をつきながら眉をひそめ、部屋を出ていってしまった。
階段を降りる菊さんの表情。それはいつもの菊さんからは想像できないような厳しい表情だった―――。

「王さん。やはりお二人は修行に行くつもりのようですよ。」
薬を作りなおしている我の所に少しおどおどした菊がやって来た。
まあ、当然だろう。あの二人が修行に出て、もしあの街に着いてしまったら。もし、本当の事を知ってしまったら。そう考えれば、いつも表情を変えない菊がおどおどしてしまう訳wもよく分かる。
「そう・・あるか・・。まあ、あの街は結構遠いある。二人があの街であいつらに会わない事を祈ってるよろし。」
ただ、それしか言う事ができなかった―――。

菊の表情（後書き）

ホントに変な所で切りますね。私は。
こんな変てこな話を2話まで読んで下さっているそこの貴方！本当にありがとうございます。
アドバイスお待ちしております～！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1241ba/

アルとマシューの魔法修行

2012年1月4日00時52分発行